

Kandai Style

2019.3 Vol.473

関西大学通信

卒業記念特別号



卒業しても
“学歌”を歌おう!

卒業しても“学歌”を歌おう!

入学式や卒業式などの行事で必ず歌っている学歌。4年間で歌う機会が少なく、しっかりと歌える人は少ないかもしれません。そこで今回は、学歌にまつわる歴史や普段から歌唱・演奏している学生団体にインタビュー取材を行いながら、学歌の素晴らしさについて特集します。卒業される皆さん、卒業式で学歌を歌いましょう!

学歌の歴史

作られた経緯は?

「自然の秀麗 人の親和……」で始まる現在の学歌は、1922年(大正11年)9月、本学が大学令によって大学に昇格した後に制定されました。校歌はすでにありましたが、当時の山岡順太郎総理事が提唱する「学の実化」を受けて、新時代にふさわしい学歌が待望されていました。そこで、本学の服部嘉香教授が作詞し、服部教授の知人であった山田耕柞氏が作曲した新たな学歌が作られたのです。山田氏による二長調のメロディは、荘厳にして高い格調で、本学にふさわしい学歌となりました。

込められた思い

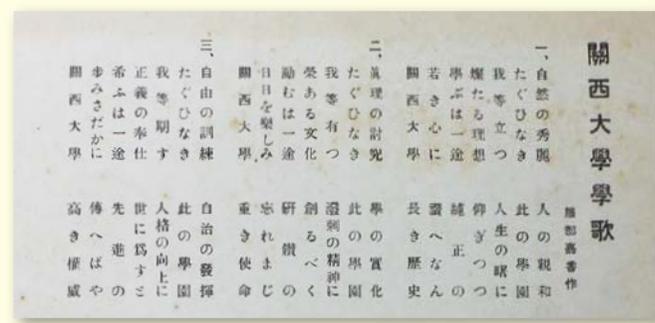
学歌には、理想に向かって歩む学生の力強い意気が込められています。作詞をした服部教授は、「力強く、足を大地にたたきつけ、行進するにふさわしく、はっきり歌ってほしい」と語っています。また、学歌の完成後、山田氏が歌唱指導に来学した際には、「マーチを奏するようなテンポで、力強く、明瞭に、そして歯切れよく歌うように」と指導したという記録も残っています。

歌詞が実は違っていた!

服部教授から詞を受け取った山田氏でしたが、リズム上の制約から歌詞の一部を変更しました。第3節の「自由の訓練 自治の発揮」を「自由の尊重 自治の訓練」と、第2節の「学の実化(じっか)」を「じっげ」と歌うように指導。それから今日に至るまで、その歌詞で歌い継がれています。



▲山田氏が自ら執筆した楽譜



▲当時の歌詞カード



▲作曲者の山田耕柞氏



▲作詞者の服部嘉香教授

関西大学学歌

服部嘉香 作詞
山田耕柞 作曲

(一)

自然の秀麗 人の親和
たぐいなき 此の学園
我等立つ 人生の曙に
燦たる理想 仰ぎつつ
学ぶは一途 純正の
若き心に 讃えなん

関西大学 関西大学
関西大学 長き歴史

(二)

真理の討究 学の実化
たぐいなき 此の学園
我等有つ 澗刺の精神に
榮ある文化 創るべく
勵むは一途 研鑽の
日々を樂しみ 忘れまじ

関西大学 関西大学
関西大学 重き使命

(三)

自由の尊重 自治の訓練
たぐいなき 此の学園
我等期す 人格の向上に
正義の奉仕 世に為すと
希うは一途 先進の
歩みさだかに 伝えばや

関西大学 関西大学
関西大学 高き權威



◀学歌音源はこちらから



◀山田氏の生歌音源はこちらから

教員インタビュー



政策創造学部 学部長
小西 秀樹 教授

学歌との出会いは入学式です。さすがに大学らしく、格調高いと感じました。その後、学術研究会に入部して学歌を歌う機会が格段に増え、大会や懇親会では学歌に始まり、逍遥歌で締めるといった流れでした。たまたま居合わせた関大卒業生も飛び入り、一緒に肩を組んで歌うということも。世代を超えた関大の絆を確認した思い出です。現在は校友会の行事に参加して歌えば、逆に学生時代に戻れます。学歌は時間を自在に操ってくれますね。学歌には、権力や権威に縛られない自由な考え方や工夫を尊重するという、関大の歴史と学風が表現されています。学生の皆さんには、歌詞に込められたメッセージをよく考え、日々あらゆることに挑戦し、卒業式では、学歌と自身の大学生活とを重ね合わせ、社会での道しるべにしてほしいと願います。ただ、そのようなことを教員に言われなくても、皆さんの多様な活躍の意義が学歌に自然と示され、学歌の精神が皆さんの人生に自然と生かされるというのが、自由自治を尊重する関大らしい姿でしょうか。

職員インタビュー



ミュージズオフィス
黒澤 花衣 さん

初めて学歌を聞いたのは、入学式の時です。式次第に書いてあった歌詞カードを見ながら、うっすらと歌っていた記憶があります。入学後は応援団(バトン・チアリーダー部)に入部したので、学歌を歌う機会が多くありました。4年次は団長を務め、学歌斉唱の際は前に立って指揮を執っていました。私の後ろには、他の団員が立って大声で学歌を歌いますが、その声を聴きながら関大への愛校心を感じていました。また、目の前にいる観客の方々や学生と一緒に歌っているのを見ると、その場の人々の想いが一つになっているようで、長年歌われ続けている学歌や歴史の重みを実感しました。学歌の良いところは、先輩方の想いが感じられ、情景が浮かぶ歌詞です。歌詞の意味を感じながら、士気を鼓舞する気持ちでさまざまな思いを乗せて指揮を執ったり歌ったりしていました。学生の皆さんが関西大学に入学したのも、何かの縁だと思えます。卒業するまでに学歌を歌う機会は限られているかもしれませんが、卒業しても母校であることに変わりはありません。歌詞をぜひ覚えてたくさん歌ってほしいなと思います。

混声合唱団 ひびき

化学生命工学部4年次生
赤木 順 さん

学歌は、入学式や卒業式のほかに、年3回行われる演奏会の始めにも必ず歌っており、私たちにとって名刺代わりのような曲です。普段は混声4部合唱ですが、入学式などオフィシャルで歌う場合は斉唱用の楽譜を使用しています。数年前に、作曲者の山田耕祐さんが学歌を歌っているレコードが発見され、その音源を聞きましたが、今までオフィシャルで歌ってきた曲とは異なる部分がありました。ひびきでは昨年、山田さんが歌われた楽曲を忠実に再現し、現在は原曲に近づけて歌っています。今後は、要所に見える山田さんのこだわりや学歌の良さを、ひびきから発信していきたいと思っています。



第51回定期演奏会の様子▶



交響楽団

文学部3年次生 井浪 美生子 さん
社会学部3年次生 八度 明日香 さん

学歌は、入学式や卒業式、スプリングフェスティバルなどで演奏します。入学式や卒業式は、他の団体と合同で行いますが、リハーサルが一度だけなのですごく緊張します。また、各行事後の懇親会などでは、始めに全員で円になって学歌を歌います。学歌を初めて聞いた時は、元気で明るく覚えやすい歌だなと感じました。“関大らしさ”がよく出ていると思います。楽譜にも軽快なリズムが多く使われているので、私たちが演奏する際も軽快さが伝わるように、その部分は気を付けて演奏するようにしています。今後も、“関大らしさ”をしっかりと引き継いでいきたいです。



第41回サマーコンサートの様子▶



グリーンクラブ

システム理工学部3年次生
松浦 貴彦 さん

学歌は、入学式や卒業式をはじめとする行事のほか、定期演奏会とジョイントコンサート、グリーンクラブのOB総会で歌います。その際は、クラブのブレザーとネクタイを着用し、気を付けの姿勢で歌います。入学式・卒業式での混声合唱団ひびきとの合唱は、リハーサルで軽く合わせるくらいでほぼぶっつけ本番。日々、練習を積んでいるのでうまくいっているのだと思います。OB総会での歌唱は、約50人でハモるので圧巻です。学歌で好きなのは“関西大学”と3度繰り返すところで、インパクトがあります。歌詞の一つ一つから大学の歴史や自然豊かなキャンパス風景を感じます。



第60回記念定期演奏会の様子▶



応援団

社会学部3年次生 村上 美穂 さん
法学部3年次生 上杉 翼 さん
法学部3年次生 小池 千晶 さん

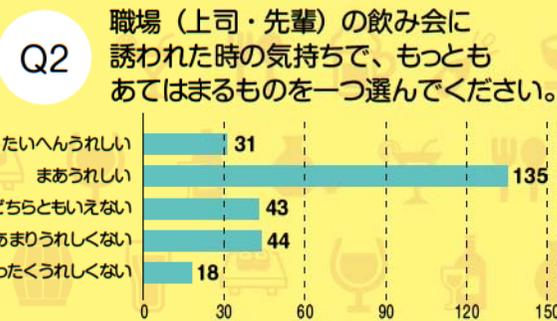
私たちが学歌を歌唱・演奏するのは、主に体育会クラブの応援に行った時です。原則、試合前と試合後に歌っています。その際は、応援団員だけではなく、各クラブのスタンドで応援している部員も一緒に歌います。試合前に、全員で同じ歌を歌う習慣は、関大の良い伝統ではないでしょうか。応援団と学歌は、切っても切れない関係です。行事の際に学歌を歌うのはもちろん、合宿でも毎朝必ず学歌を歌います。歌い方にも決まりがあり、先輩が作られた応援団史にも記載されています。今後も、関大の良き伝統として学歌を歌い続けていきたいです。



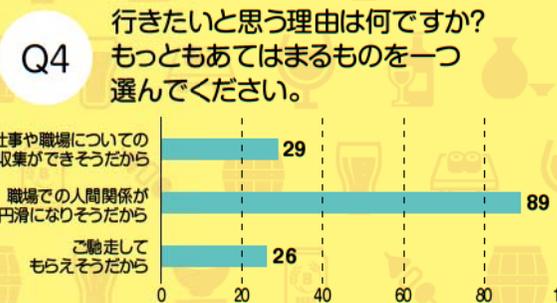
▲第57回定期演奏会の様子



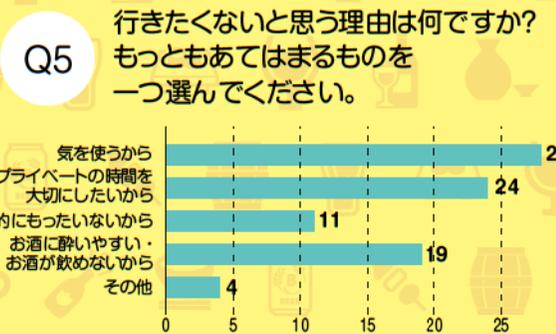
皆さんにお聞きします。



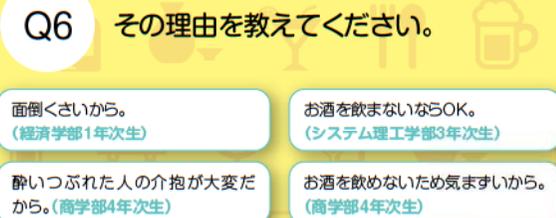
Q3でぜひ行きたい、まあ行きたいと答えた方にお聞きします。



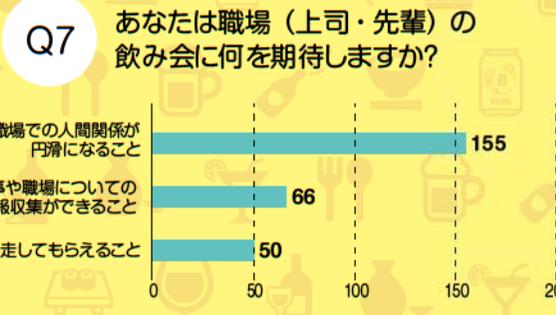
Q3であまり行きたくない、絶対に行きたくないと答えた方にお聞きします。



Q5でその他と答えた方にお聞きします。



皆さんにお聞きします。



みんなで一緒に考えよう。関大誌上教室

社会人になると誘いを受ける機会が増える飲み会。職場の飲み会に誘われた時の気持ちや、職場の飲み会には組織にとって必要だと思うかどうか等、アンケートを通して皆さんの率直な意見を探りました。

必要？ 不必要？

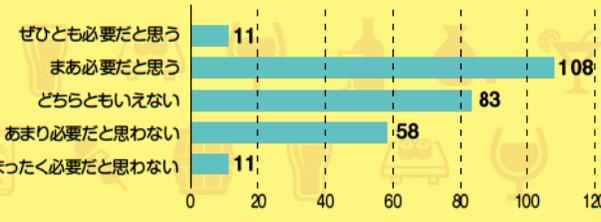
飲みニケーションは

アンケート期間…
2018年11月27日～
2019年1月9日
対象者…関大生
回答者数…271人

Q8 どんな飲み会であれば行きたいと思いますか？

- お酒を強要しない。セクハラ発言がない。みんなで楽しく飲める。孤立してしまわないように気を使える人がいる。(社会学部3年生)
- お金があまりかからず、しっかりとご飯も食べられて、上司や同僚と仲を深められる飲み会。(政策創造学部3年生)
- 尊敬できる上司とあまり気を使うことなく話せて、ためになる話を聞ける飲み会。(理工学研究科M2)
- 若手社員も気楽に参加できる雰囲気。飲み会で、いつ帰っても大丈夫な飲み会。(社会学部4年生)
- お酒だけでなく、ソフトドリンクの種類もたくさんあって、お酒を強要したりしない飲み会。(文学部3年生)
- お酒を強要されない、宴会芸を強要されない飲み会。(総合情報学部4年生)

Q9 職場の飲み会は、組織にとって必要だと思いますか？思いませんか？



Q9でぜひとも必要だと思う、まあ必要だと思うと答えた方にお聞きします。

Q10 その理由を教えてください。

- 目上の人に飲み会に誘われたらご馳走してもらえる期待感もあるし、普段話せないようなことを話せたり聞けたりすることに魅力を感じるから。(システム理工学部3年生)
- 飲み会をすることでお互いのことをより深く知ることができて、仕事でのコミュニケーションも円滑になると思うから。(文学研究科M2)
- 飲み会が良いコミュニケーションツールの一つであることは否定できないから。(商学部3年生)
- 普段話せないことや人と関わる機会が増えるから。でもお酒は飲まなくてもいいと思う。ランチのほうが時間的に遅くならず助かる。(文学部4年生)

Q9であまり必要だと思わない、まったく必要だと思わないと答えた方にお聞きします。

Q11 その理由を教えてください。

- 「組織」としてという文言に引っかかる。会社などの組織を団結するために飲み会を行うのはナンセンス。個人個人のライフスタイルを尊重すべき。わざわざ、仕事で疲れたらまったり夜に飲み会をもうけなくてもいい。(外国語教育学研究科M1)
- 飲み会をしなくても円滑な関係を築けると思うから。(環境都市工学部4年生)
- 個人的には飲み会は楽しいが、お酒が嫌いな人も多し自分も都合が合わない時に強制で行かされるのは嫌なので、全体ではなく個人的な付き合いの一部で良いと思う。(環境都市工学部4年生)
- 勤務時間外まで上司や先輩に気を使いたくないから。(商学部4年生)

アルコールに関する正しい知識を身に付けましょう

大学生の飲酒事故の大半は、部活・サークルの新入生歓迎コンパや合宿、卒業式などでのイッキ飲みで、短時間に多量のアルコールを摂取することによる「急性アルコール中毒」によるものであり、現に死亡事例も発生しています。アルコールに関する正しい知識を身に付けるとともに、関西大学生として良識のある行動をしてください。

- ほろ酔い
- 酩酊
- 泥酔
- 昏睡

アルコールの作用で大脳新皮質がマヒして理性の抑制が外れている状態
・気分が爽やか
・リラックス

大脳辺縁系にマヒが及んでる状態
・吐き気や嘔吐
・ろれつが回らなくなる
・千鳥足

脳全体にマヒが広がり、ぐったり酔いつぶれた状態
・まともに立てない
・意識混濁
・言葉が支離滅裂

マヒが脳幹・脊髄から呼吸中枢のある延髄まで至り、生死に関わる深刻な状態
・振り動かしても起きない
・大小便垂れ流し
・死亡

いい気分でも油断禁断
これ以上酔いが進まないよう気を引き締めよう！

これ以上の飲酒はダメ！
周囲の人も行き過ぎた飲酒を阻止しよう！

急性アルコール中毒の疑いがあります！
酔いつぶれた人には適切な介護を！

- 20歳未満の飲酒は法律で禁止されています
 - アルコール・ハラスメントを阻止しよう！
 - アルコールを飲んではいけない人がいます
- 「STOP! 20歳未満飲酒」マーク 出典：ビール・酒造組合
- お酒に強い弱い、アルコール代謝能力によって決まっています。代謝能力を決めるのはアルコールを分解する酵素の働きで、日本人の約4割はお酒に弱い体質といわれています。お酒が弱い、飲めない体質の人は、ごく少量のお酒でも気分が悪くなってしまいます。



PROFESSOR'S COMMENTS
社会学部 永井良和教授

「飲み会」というコトバは昭和戦前期からありますが、日常的にもちいられるようになったのは近年のことです。以前は、送別会や謝恩会、忘年会などのように集まりの目的が示され、酒席であることが前面には出ませんでした。学生や女性が気軽に飲酒できる昨今の風潮が、「飲み会」というコトバをひろめたといえます。おとな社会の

文化が学生文化に浸食されたとの見かたもできます。特別の目的もなく酒を飲むためだけに集まるのですから、飲めない人や酔っぱらいが嫌いな人には耐えがたい場でしょう。行きたくない、必要を感じない人の割合が増えるのは当然です。酒好きな人からすれば、「飲みニケーション」不足で集団がまとまらなくなった、との嘆きにつながります。しかし、懇親や接待の名のもとにハラスメントや不正が横行していた時代にもどることも、できないはず。禁煙・分煙がすすんだように、飲酒の場も隔離されていくのが趨勢なのかもしれません。

次回のテーマは…「新入生の時間管理」

高校生と大学生では、授業時間や休みの期間が大幅に変化します。大学生活を1年間過ごしてきた学生が、4月から入学する新入生が時間の変化に戸惑わないように、アドバイスを送ります。

3月号「関大誌上教室」アンケートプレゼント当選者の発表について

今号の「関大誌上教室」アンケート「飲みニケーションは必要？不必要？」にご協力いただいた皆さん、ありがとうございます。プレゼントの発表は、当選者のみ、インフォメーションシステム「個人伝言」で連絡します(3月18日に通知予定)。「関大誌上教室」のアンケートは次号以降も行う予定ですので、ご協力をよろしくお願いいたします。

大島鎌吉さんを知っていますか?

跳ぶ哲学者と東京五輪

来年の東京オリンピックへの関心は一層の高まりをみせています。それに合わせて本学出身のメダリストの中で、1964年(昭和39年)の東京五輪で日本選手団長などを務めた大島鎌吉氏(1908年～1985年)の業績が改めて注目されつつあります。「五輪の哲人」とも「跳ぶ哲学者」ともいわれた大島氏の足跡をたどります。

走るだけなら馬でも走る。もっと本を読もう。

金沢市出身の大島氏は金沢商業学校で三段跳びに熱中し、1927年(昭和2年)の第8回上海極東五輪で準優勝し、非凡な少年ジャンパーとして全国的に知られるようになります。数多くの大学が大島氏の進学を勧誘しましたが、氏は関西大学に進みました。

在学中から勉強にも精を出し、「走るだけなら馬でも走る。もっと本を読もう」と仲間を励ました。文武両道の典型で、大島氏は特にドイツ語習得に力を入れ、後に全国紙のベルリン特派員としてドイツで仕事をする素地はこの頃作られました。

在学中の1932年(昭和7年)、ロサンゼルス五輪の切符をつかみます。三段跳びで南部忠平氏らと出場し、南部氏は金メダル、大島氏は銅メダルを獲得しました。大島氏は競技前に選手村でのガス爆発に遭遇し、大火傷を負っての跳躍でした。



▲ロサンゼルス五輪で銅メダルを獲得した時の賞状



日米対抗陸上競技大会(1934年9月開催)で、世界新記録を樹立した時のブロンズ像

ブロンズ像

昭和9年(1934)9月、甲子園で開催された日米対抗陸上競技大会で、1000ヤード(914.4m)の世界新記録を樹立した時に贈られたブロンズ像

大島氏とオリンピック精神

2年後、大島氏は法学部を卒業し、全国紙を発行する新聞社に就職し、競技を続けながら記者活動を始めます。そしてベルリン特派員として6年間ドイツで過ごし、戦渦の悲惨を体験したことが、大戦後の活動に色濃く影響します。

戦後もスポーツ担当記者として勤務する一方、陸上競技の後輩を育てながら日本スポーツ少年団の発足に力を入れました。一方では1964年(昭和39年)の東京五輪で選手強化対策本部長、日本選手団長を務めます。

とりわけ対策本部長として発揮した手腕は、その後長く語り継がれることとなります。国会でも議論を呼ぶほどの巨額資金を投入して「スポーツ科学」を導入したのです。そして「金メダルは15個以上獲得」との目標を宣言しました。それまでのメダル最多獲得数が7個でしたから、周囲は「大丈夫か」と首をかしげましたが、結果は「16個」で、目標を上回ったのです。

こうした活動を支えた大島氏の考え方の基本の一つは、オリンピックの精神にひそむ平和主義や国際主義とともに、「人生で最も大切なことは、勝ったことではなく、けなげに戦ったことである」といいます。フェアプレーに通じる精神です。

今秋にはシンポジウム開催へ

関西大学では大島氏の功績を記念して、1988年(昭和63年)に「大島鎌吉スポーツ文化賞」(当時名称)を創設。優秀な成績を収めた本学の学生らのほか、広くスポーツ文化に貢献した学外の個人・団体を表彰しています。さらに東京五輪をひかえた今秋にも、関連のシンポジウムを開催しようと準備が進められています。

▲大島鎌吉氏のジャンプ(1936年ベルリン五輪)



▲大島鎌吉氏

学部・研究科ピックアップ

法学部／法学研究科

またいつでもお立ち寄りください

関西大学法学部および法学研究科の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。今でも皆さんの入学時の緊張が目の前に浮かびます。学部、大学院を問わず、学問を通じて得た知見や感性は、皆さんの個性となり、今後の人生において、大きな助けとなります。問題に直面した際は、もう一度そのことを思い出してください。関大での友人関係や師弟関係も支えとなることでしょう。安心して社会にこぎ出してください。たまには関大法学部に顔を見せに来てください。

(教学主任 水野吉章准教授)

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

文章を読むチカラ

皆さん卒業おめでとうございます。ただ、今後勉強しなくても良いと思ったアナタ、それは大間違いです。現代では、社会人になった後でも、常に勉強が求められる時代になっているのです。また、そのときに必要なのが「文章を読むチカラ」なのです。統計によれば、社会人の多くが意外に文章を読めないといわれます。むしろこれから、ここで差がつくかもしれません。ですので社会に出た後も、書籍やネットの記事などを読む努力を続けるようにしてください。

(副学部長 二階堂善弘教授)

経済学部／経済学研究科

学生時代を忘れずに

ご卒業、心からお祝いを申し上げます。いろいろな思い出を胸に新しい世界に旅立られることと思います。就職や進学など進路はさまざまだと思いますが、大学で学んだことや大学時代の友人は皆さんにとっての財産です。特に、卒業論文では客観的な論述の方法を学んだと思いますが、仕事の場でも役立つはず。また、新しい世界で悩んだときには、職場の人とは少し違った見方を持つ友人から助言を得られれば参考になるでしょう。大学で培った財産を大切に新しい世界でも活躍ください。

(学部長 野坂博南教授)

各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

商学部／商学研究科

商学部卒業生の皆さんへ

商学部の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。商学部では、実学教育を学部教育の根幹と考え、グローバル化・情報化時代に対応できる人材の育成に力を注いできました。多くの卒業生はビジネスの世界で活躍されますが、社会の一員として活躍できる判断力と識見を有する人材として活躍されるはず。今振り返ってみれば、充実感・達成感があれば、悔いや反省もあったことと思いますが、卒業後も知的好奇心の羽をいっぱい伸ばして、大きくキャリアアップされることを願っています。

(学部長 中馬道靖教授)

社会学部／社会学研究科

社会のなかで自分らしく生きる!

皆さんが各専攻で学んだことは社会に出てから必ず役に立ちます。すぐに役立つこともあれば、社会人経験を5年、10年と積んでから役に立つこともあるでしょう。それぞれの専攻で4年間通して学んだ物の見方・捉え方、知識・技術などを皆さんが工夫して、各自が進む分野で生かしていくことは、皆さんが自分のキャリアを自分でつくっていくことであり、社会の中で自分らしく生きていくことにつながります。ご活躍を期待しています。皆さん、ご卒業おめでとうございます。

(学部長 川崎友嗣教授)

政策創造学部／ガバナンス研究科

政策創造学部卒業の皆さんへ

ご卒業の皆さん、おめでとうございます。大学で過ごした年月を今振り返ってみて、どのような感想をお持ちでしょうか。学内そして学外での学びも、クラブやサークルでの活動も、あるいは友人との交流も、すべてがかけがえのない経験になっていると思います。その経験を生かし、これからは家族、近隣地域、さらに海外も含めたさまざまな社会において、他の人々のために尽くし、他の人々に光を与える人になることをお祈りします。あらためて、新たな旅立ちにお祝いを申し上げます。

(副学部長 浅野宜之教授)

外国語学部／外国語教育学研究科

語って拓ける人生もある

多くの人には、これが最後の学校「卒業」になるでしょう。今回の卒業で学校生活を卒業する(おえる)にあたり、感慨、感謝(後悔も?)を友人、家族、大学教職員に伝えてください。あなたを知る人たちから、多くの思い出やエピソードが返ってくると思います。他者の言葉・語りをもらい、学校生活を忘れがたい価値あるものにして卒業してください。「人生の1ページ」ではなく、何冊にも数えられる学校16年(プラス)を携えて。

(副学部長 今井裕之教授)

人間健康学部／人間健康研究科

小さなつながり大きなつながり

人間健康学部1学部からなる堺キャンパスは、顔の見える関係性が築きやすい環境にあります。また学生の皆さんは、本学部教育の特色である入学直後から始まるグループの力を活用したさまざまな学習活動や地域と連携した活動の経験などを通じて、自分や自分たちの力を認め発揮できる状況を自らつくる力を培ってこられました。社会に出て、より多様な人々や異なる環境のもとでも、小さなつながりの信頼関係で培った力を発揮してつながりの輪を広げてください。

(副学部長 所めぐみ教授)

総合情報学部／総合情報学研究科

満たされない気持ちを成長へと

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。さて、この卒業により、皆さんは、小学校入学以来過ごしてきた学校という場所を離れ、社会へと旅立たれます。ここでは、今まで経験したことがない障壁に遭遇し、不自由さ、あるいは満たされない気持ちを感じることもあるかもしれません。しかし、その気持ちこそが、これまで、技術、文明を形作ってきました。皆さんが、学び、考え、協力し合うことによって、障壁を乗り越え、皆さんがさらに成長していけますことを心より願っています。

(学部長 桑原尚史教授)

社会安全学部／社会安全研究科

「準備はできました」

学部生の皆さん、卒業おめでとうございます。大学院生の皆さん、修了おめでとうございます。社会安全学部・研究科の厳しいカリキュラムを全うした皆さんは、(もしかすると気付いていないかもしれませんが)多様な知識とそれらの知識を使いこなす技術、そしてあらゆる分野で役に立つ高い課題解決能力を既に身に付けています。さまざまなことにチャレンジする準備ができています。自分に自信と誇りを持って、次のステージに進んでください。皆さんの今後のご健勝とご活躍をお祈りします。

(学部長 高橋智幸教授)

専門職大学院トピックス

会計専門職大学院

公認会計士試験合格者は過去最多に

修了おめでとうございます。修了された皆さんは、身に付けた会計専門職としての能力を、これからは仕事の中で生かしていくこととなるでしょう。会計専門職の一つである公認会計士を目指す学生も多いですが、2018年は公認会計士試験の合格者が過去最多の15人になりました。将来の夢に一步近づいたことでしょう。また、税理士等の会計専門職業人や企業内における会計の専門家として、これから成長し活躍する修了生も多いでしょう。皆さんの夢の実現を心より期待しています。

(副研究科長 三島徹也教授)

併設校トピックス

関西大学北陽高等学校

人生の中の大きな転換期

ご卒業おめでとうございます。今まで数々の「卒業」を経験されてきたと思いますが、人生の中でも大きな転換期となる最後の「卒業」となります。これからは自分の将来を見つめ、自分自身を律していかなければなりません。努力次第で、いくらでも未来を変えることができます。時間は確実に過ぎていき、二度と戻ってくることはありませんので、夢をかなえるための努力を惜しまず、時間を大切にしてください。退屈に思える今であったとしても、それは人生において一度きりしかない、かけがえのない今なのです。二度とやってこない今のこの瞬間を大切にしてください。自分の希望する方向があるのに、何か理由をつけて自分の可能性を低く見積もることのないようにしてください。今後の人生は前進あるのみです。

(教頭 内田正人)

システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

理工系を卒業・修了する皆さんへ

卒業・修了おめでとうございます。今年はシステム理工学部約500人、環境都市工学部約350人、化学生命工学部約350人の学部生が卒業、理工学研究科約350人の大学院生が修了します。これから先、皆さんがそれぞれ研究室で学んだことが実社会で試されます。社会で高度な能力や技術を身に付け、さらに飛躍されることを心からお祈りいたします。よく「石の上にも三年」と言われます。これは「冷たい石の上でも三年も座り続けていれば暖まってくる。我慢強く辛抱すれば必ず成功する」ことの例えです。新社会人は入社から3年の間

に、1年目は仕事を教わる、2年目は1年目の復習をしながら仕事を進めてみる、3年目は自立を目指す、といった道をたどるのではないのでしょうか。一見遅々とした3年間を過ごしているように感じるかもしれませんが、それに嫌気がさし「隣(=他の企業)の芝は青い」とすぐ転職しがちですが、辛抱なくして成功は導けないと私は考えます。最近SNSの影響が大きいですが、ネット上に皆さんの成功の鍵は落ちていません。Face to Faceのコミュニケーションを大切に、そこから学びでこれから先を進んでください。最後にもう一つ。理工系学生には大学に戻ってくることでできる場所があります。それは「研

究室」です。朝から晩まで先生や先輩・同輩・後輩と一緒に過ごした思い出深い場所です。卒業後も時間があるときには研究室に顔を出してみてください。社会に出てから得た在籍時とは違う視点で、新しい何かを見つけられるかもしれません。

皆さんの今後の活躍を期待しています。(化学生命工学部 副学部長 平野義明教授)

Attention 大学からの重要なお知らせ

2019年3月31日をもって関西大学を去られる専任教育職員を紹介します。

法学部	佐藤 やよひ 滝川 敏明 朝治 啓三
文学部	伊東 理 澤井 茂夫 山本 登朗
経済学部	佐々木 信彰
商学部	羽鳥 敬彦
社会学部	石元 清英

社会学部	小笠原 盛浩 東村 高良 久本 博行
政策創造学部	松井 修視 羽原 敬二
外国語学部	菊地 歌子 熊谷 明泰 中田 達也
人間健康学部	杉本 厚夫

総合情報学部	仲川 勇二 古田 均
社会安全学部	廣瀬 幸雄
システム理工学部	安芸 重雄 大村 泰久
環境都市工学部	木村 俊一
法科大学院(法務研究科)	春日 偉知郎 森岡 安廣

(敬称略) 大変お世話になりました。ありがとうございました。

関大トピックス

卒業生の皆さんへのお知らせ

■校友としての図書館利用について

卒業生の方は、手続きをすれば卒業後も関西大学の図書館を利用できます。詳しくは図書館ウェブサイトの「卒業生・学外の方へ」(<http://opac.lib.kansai-u.ac.jp>)をご確認ください。

問い合わせ先 図書館メインカウンター
電話:06-6368-0266

■「進路決定報告」と後輩の就職支援サポートにご協力ください

卒業後の「進路決定報告」がまだの方は、至急キャリアセンターまで報告をお願いします。その際、OBOG訪問の同意の可否については、後輩の就職活動をサポートするためにも、同意をご協力をお願いします。

なお、卒業後も就職活動を続ける卒業生へのサポートも、株式会社マイナビワークスと連携して引き続き行っています。お気軽にご相談ください。

問い合わせ先 キャリアセンター/
卒業生就業支援室
電話:06-6368-0162

■資格取得で卒業生のキャリア形成を支援

エクステンション・リードセンター(KUEX)では、各種資格取得を通して皆さんのキャリア形成をサポートするために、一般の方より安価な卒業生料金で受講できる対策講座を多数開講しています。思い立った際には、ぜひKUEXへ詳細をお問い合わせください。

また、英語で学ぶビジネス講座、UCLA Extension 提携オンライン講座を実施しています。詳細は <https://www.kansai-u.ac.jp/extension/unexonline/> をご確認ください。

問い合わせ先 エクステンション・リードセンター
電話:06-6368-0721

■奨学金の返還について

奨学金の貸与を受けていた皆さん宛に、返還の期日が近づくと、「振替案内」などが送付されます。返還関係書類が届かないことがないよう、卒業後に住所・氏名・連帯保証人の変更などがあれば、変更届を提出してください。皆さんからの返還金は、後輩の奨学金として直ちに利用される仕組みとなっている事をご理解いただき、滞滞のないよう注意してください。

問い合わせ先 奨学支援グループ
電話:06-6368-1121(大代表)

■卒業後もセミナーハウスを利用できます

卒業後は校友となる皆さんは、関西大学のセミナーハウス・彦根荘(滋賀県)、白馬梅池高原ロッジ(長野県)、六甲山荘(兵庫県)が利用できます。利用を希望する方は、電話でお問い合わせください。関西大学ウェブサイトから、案内、利用状況の確認が可能です。

問い合わせ先 関西大学教育後援会
電話:06-6368-0055

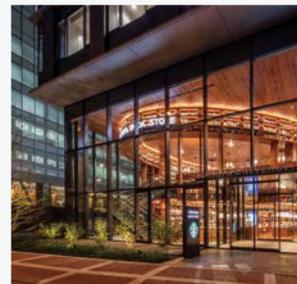
■校友会(同窓会)の輪に参加を

校友会は、延べ47万人を超える卒業生の同窓会で、会員相互の親睦や母校の発展に寄与することを目的とした組織です。校友会は、4月の「ホームカミングデー」をはじめとする行事のほか、機関誌「関大」の発行などさまざまな事業を行い、学生の「学術・文化・スポーツ」などの活動も積極的に支援しています。卒業後の皆さんの住所は、学校法人から委託を受けて校友会が管理・運用し、大学と共同利用しています。住所変更などの際には電話連絡のほか、校友会ウェブサイトからも変更できますので、ご協力をお願いします。

問い合わせ先 関西大学校友会
電話:06-6368-0046-0048

卒業後も、関西大学梅田キャンパスでお待ちしております

大学院会計研究科では、会計や労務、税務、ビジネス法務などをテーマとしたビジネスパーソンに不可欠な知識を提供することを目的に、平日の夜間(18:30~21:30)に、梅田キャンパス「KANDAI Me RISE」で講座を開講しています。会計に関する知識や会計的な見方、考え方はビジネスパーソンに不可欠な能力。また、梅田キャンパスは、阪急梅田駅から徒歩5分的好立地で、キャンパス内にはカフェや書店もあり、非常に便利です。急な出張で講義を欠席した場合でも、録画された講義動画を視聴することが可能です。



詳細は、会計専門職大学院ウェブサイトをご覧ください(こちらからアクセス可能です)。

体育会アイススケート部の中村優さんが日本学生氷上競技選手権大会で1位

1月4日~7日に、栃木県立日光霧降アイスアリーナで行われた第91回日本学生氷上競技選手権大会フィギュア競技の男子7・8級クラスにおいて、体育会アイススケート部の中村優さん(政策4)が合計233.40点をマークし、見事1位の座に輝きました。さらには、同クラスの本田太一さん(経2)が3位、女子7・8級クラスで十倉日和さん(人2)が7位、安原綾菜さん(情4)が8位、森下実咲さん(人1)が10位と活躍し、女子団体が優勝するなど、男女ともに好成績を収めました。

また、1月30日~2月2日に北海道・釧路市春採アイスアリーナで行われた第74回国民体育大会冬季大会のフィギュアスケート競技成年男子の部でも、中村さんが合計193.56点で優勝を成し遂げました。



演技する十倉さん



演技する中村さん

写真提供: 関大スポーツ編集局

関大人 四方山話 ◆「今」を重ねるといふこと

よちやまばなし



本学事務職員として約40年を過ごした。入職当時はまだ機械化夜明け前。気が遠くなるほどの手作業で業務を成り立たせていた。私の40年のほぼ全ては、これらをシステム化し「今」の姿に育てることと共にあった。いくつもの壁を越えてシステムは生まれるが、それもやがて「当たり前」の景色に溶け込み、そして次の時代に向け上書きされていく。はかない繰り返しだが、思い悩み費やした時間、感じた手応えの積み重ねは「今」を形作るパーツに埋め込まれているだ

学術情報事務局次長 鎌田正彦

ろう。いよいよ社会へ旅立つ皆さんも、これから職業人としての「今」を積み上げていくことになる。途上で壁の前に佇むこともあるだろう。けれど自分を閉ざさなければ出口は必ず見つかるもの。それが会心でなくとも若者の嫌う「格好悪さ」を伴ったとしてもである。越えさえすれば壁の前で足りなかった何かに気付くだろう。物事を柔らかく受け止め価値観の懐を深めていく。どれほどかかったかは知らないが「次の今」のため私が心得続けたことである。

編集後記

今年の卒業記念特別号の「なるほど・ザ・関大」では、1964年の東京五輪で選手団長を務められた本学OBの大島謙吉氏を紹介しました。戦時中ベルリン特派員として戦争の悲惨さを経験し、戦後の五輪招致に奔走された大島氏は、世界の若者が平和のために集うというオリンピック精神を何よりも大切にされました。二度目の東京五輪まであと1年余り、オリンピックの真の主役である若者自身が、オリンピック本来の目的やスポーツの可能性をあらためて考えるきっかけになれば幸いです。(広報委員・人間健康学部教授 村川治彦)



関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日:2019年3月18日
発行:関西大学広報委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
電話:06-6368-1121(大代表)